

[果樹部門]

1. 花の形態から判断する「おかやま夢白桃」の受粉限界

[要約]

「おかやま夢白桃」の受粉は、開花後であっても花卉が残存し、めしべが褐変していない状態であれば結実に問題がない。

[担当] 果樹研究室

[連絡先] 電話 086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

「おかやま夢白桃」は花粉が無く、他の品種より開花が早いため、花粉の確保と受粉の徹底が重要である。そこで、開花後の花器、柱頭の形態的变化を観察して本品種の受粉限界を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 結実率は開花4日後以降低下する(図1)。開花期の気温が低い年は結実率が徐々に低下する(2007年)傾向がある(温度データ省略)。
2. 2008年の状況から見ると、めしべの色は開花2日後までは黄緑色である。開花4日後以降は急激にオレンジ色に変色し、その後次第に褐変する(図2、図4)。また、花卉は開花4日後まで残存するが、その後急速に落下する(図3、図4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 年次によって、開花期の低温により遅くまで結実可能な場合もあるが、花器の状態を把握し、追加の受粉を行うか判断する。

[具体的データ]

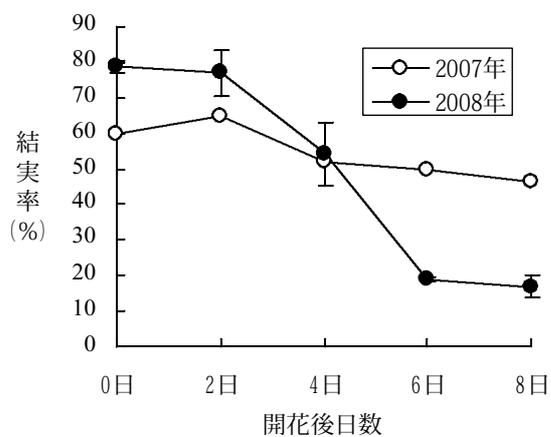


図1 受粉時期の違いが「おかやま夢白桃」の結実率に及ぼす影響

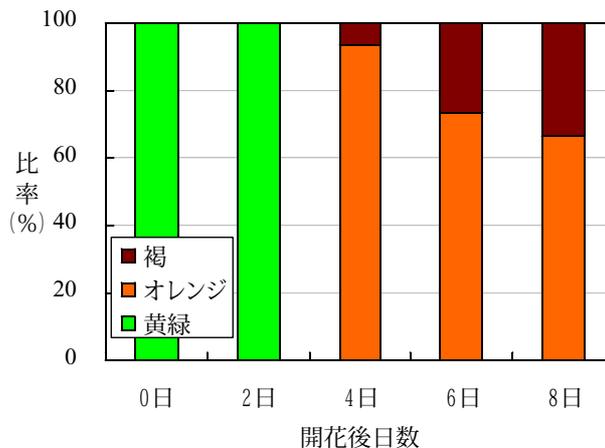


図2 「おかやま夢白桃」のめしべの色の変化 (2008年)

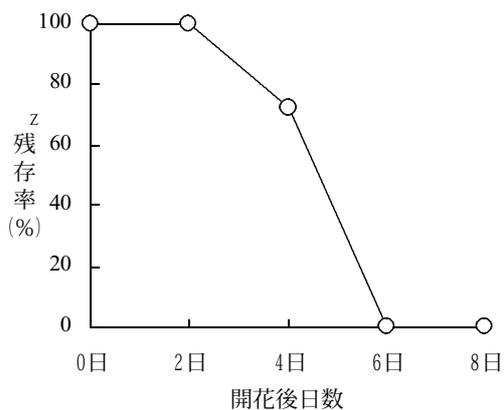


図3 「おかやま夢白桃」の花弁残存率の変化(2008年)
^z花弁5枚が残った花を100とした



図4 「おかやま夢白桃」開花後の花の形態(2008年)

[その他]

研究課題名：おかやま夢白桃のブランド化のための安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2007～2011年度

研究担当者：藤井雄一郎、安井淑彦、永井真弓

関連情報等：1) 笹邊ら (2005) 岡山県農試研報、23：13-16

2) 岡山県農業総合センター技術情報 No.31 「「おかやま夢白桃」の育成」

3) 平成 19 年度試験研究主要成果、13-14